

意見(1)

八幡浜市水道ビジョン(案) 「命の水、安心、安全未来まで」をわかりやすく分説され、評価しています。

先人たちは、限られた厳しい地理的条件の中、地下水を主流とし汲みすぎによる塩水化を恐れながらも、ただただ断水回避を第一目標に掲げ、相殺ロスを承知の上、小水源井戸を掘り、一滴の地下水をも拾い上げ、親水源地の補強にと急場を凌いだ跡を見るにつけ、当時の苦労を伺い知ることが出来ます。それでも結果として、昭和 50 年から 59 年の間には幾度となく断水の洗礼を受けました。

水道管理者は、絶えず施設のチェック、対策を検討することが、必須課目でもあり、責務ではないかと感じました。又、市民平等利益の観点から高台対策として加圧ポンプを数多く設置対応しており、維持管理費の占める割合も高いのではと推察いたします。

やがて、先人達の苦労も報われる日が訪れ、昭和 60 年 4 月待望の南予水道企業団からの受水が始まり、断水の心配も消え今日に至っています。

今回、平成 21・22 年度の 2 ヶ年で八幡浜市水道ビジョン(案)を策定され、現状の水道施設(簡水を含む)の合理化、水質保全、管類の耐震化、簡水の位置付等課題は山積みです。

思うに、安心・安全の担保にはそれ相当に高くつくものだと改めて知り、併せて理解を深める機会になりました。

今後、わが町の 10 年から 15 年先を見据えた水道ビジョン(案)の具体化に鋭意取り組んでいただきたいものだと期待を寄せるものです。

結びに、去る新春インタビューの中で市長は、今年的主要施策として市立病院改築計画策定、港湾ビジョンの具現化、農漁業活性化の取り組み等を披露され、頼もしく受け止めました。一方、地味ですが、この度の八幡浜市水道ビジョン(案)策定は、上記列挙事項と肩を並べる次元の高いものだと見えています。

断水のない安らぎの町八幡浜に住む幸せを噛み締める日々です。